

SR400S

1992年 / 市販車

ヤマハ発動機のモーターサイクルを代表するロングセラー単気筒ロードスポーツ。

「普遍的な美しさ」を追求したデザインは、美しい曲線を描くティアドロップ型の燃料タンク、シンプルなシート、前後フェンダーやマフラーに施された高品質なクロームメッキは、職人気質を感じさせる丹念な作り込みで SR の上質さを表している。XT500譲りの空冷4ストローク単気筒 SOHC エンジンから放たれる単気筒ならではの力強い「鼓動」も SR のアイデンティティである。ダブルクレードル「オイルタンク・イン」フレームは車体全体の剛性やデザイン性にも貢献している。癖のないシンプルでバランスの良いパーツ構成とした。その結果、市場において数多くのバリエーションのカスタムキットが開発され、ユーザーは自分のオリジナルマシンを組み上げるベース車となったこともロングライフのモデルとなった一因。一方、カスタムを施したユーザーが、改めてオリジナルの SR の姿に戻すという事例も少なくない、稀有なモデルであった。40年以上に渡り、造形面では殆ど印象を変えていないが、らしさと新鮮さの両立を図るため、カラーリングはいくつかの基本形を持ちながら数多くのバリエーションを生み出した。

